



## 山科ゆかりの文学シリーズ その4 「小野小町の七変化（へんげ）」

平安時代前期の代表的歌人で「六歌仙」の一人、  
”絶世の美女”として知られる小野小町。

小町が多くの男性と交わした恋の歌から、宮中での華やかな生活がしのべられます。

しかし、謡曲（ようきょく・能の台本）などでは容姿の移ろいととも様々に変化していく境遇を、小町は歌で表しています。

「花の色は うつりにけりな いたづらに わが身世にふるながめせしまに」（『百人一首』・『古今和歌集』）

容姿の移ろいととも様々に変化していく境遇を、小町はこのような歌で表しています。

時代は下って元禄3年(1690)、大津の地で、松尾芭蕉は「名月や海にむかへば七小町」という句を詠んでいます。琵琶湖の水面を眺め、小野小町が絶世の美女から老衰へ七変化する様を描いた謡曲「七小町」をふまえて、時間とともに推移する湖水の妖艶（ようえん）さを吟（ぎん）じたものです。「七小町」は、小町ものといわれる七つの謡曲を指しますが、このうち、『通小町』で語られる「深草少将の百夜（ももよ）通い」は、山科・小野の地に伝えられています。

小野小町を恋慕う深草少将に、小町は自分のことをあきらめさせようと「百夜訪ねて来てくれたなら、お心に従いましょう」と告げると、少将はそれから小町のもとへと毎晩通うが、最後の夜に力尽きて息絶えます。

男の愛情をもてあそんだ小町の驕慢（きょうまん）な性格が描かれており、このようなイメージが盛者必衰の無常観と結びついて、後世、老いて落魄した小町の説話が生まれたのではないかと考えられています。



小町は、宮仕えを辞した後、山科の小野で過ごしたといわれており、山科を代表する門跡寺院の一つである随心院は、「小野小町」ゆかりのお寺としても知られています。

毎年3月の最終日曜日、「はねず踊り」が催され、華やかに着飾った少女たちが梅の小枝を手に持ち、「百夜通い」の童歌に合わせて舞い踊ります。

## 図書館からのお知らせ

★2月9日（金）から図書館サービスがより便利になりました！

- ・視聴覚資料の貸出延長が可能に。
- ・蔵書検索結果画面で書影（本の表紙画像）が表示されるように。
- ・障害のある方に対する特別貸出の予約可能点数が20点に。  
※詳しくはHPまたは館内掲示等でご確認下さい。

## 定例行事 2月予定

- ☆2月17日（土）おたのしみ会  
午前11時～ 図書館職員によるパネルシアター・手あそび・大型絵本の読み聞かせなど
- ☆2月19日（月）赤ちゃんの会～トコトコくらぶ～  
午前11時～ そのえだなかよし文庫さんによる絵本の読み聞かせなど
- ☆2月24日（土）Head Shoulders で遊ぼう！  
午後2時30分～ヒップファミリークラブさんによる英語の歌や読み聞かせ

## 新着図書紹介

- ・「出生前診断、受けますか？」野村優夫/著
- ・「トコト優しい洗淨の本 第2版」日本産業洗淨協議会/編
- ・「サリマン大家さん”1棟目”の教科書」峯島忠昭/著
- ・「アノニム」原田マユ/著
- ・「太宰治の辞書」北村薫/著

## 今月の展示

- ◆「ウインタースポーツ」…寒くても身体を動かしてスポーツを楽しもう！お正月太り・運動不足も解消！

## コーナー紹介

- ◇「ブックガイド」…どんな本をよんだらいいのかな？みんなどんな本を読んでいるのかな？次に読む本、読みたい本を探すとき、迷ったときは、このコーナーへ！

背表紙シール → ブックガイド

